



多摩交流センター 20年のあゆみ

市民ネットワーク活動のこれまでとこれから



(公財) 東京市町村自治調査会
多摩交流センター





多摩交流センター 20年のあゆみ

市民ネットワーク活動の
これまでとこれから



多摩交流センター 20 年のあゆみ

市民ネットワーク活動のこれまでとこれから

目次 CONTENTS

● 多摩交流センターの 20 周年を祝して — 挨拶 — P. 7

- 竹内 俊夫 公益財団法人 東京市町村自治調査会理事長／青梅市長
 渋谷 金太郎 多摩交流基金運営委員会会長／清瀬市長
 坂本 義次 多摩交流基金運営委員会委員／檜原村長
 横山 洋吉 元 TAMA らいふ 21 協会事務次長

● PART1 多摩交流センター 20 年のあゆみ P. 13

1. 多摩交流センター開設の経緯 … P.14
2. 多摩交流センターの概要 … P.15
多摩交流基金運営委員会の役割、歴代委員一覧
3. (公財) 東京市町村自治調査会の概要 … P.18

● PART2 多摩交流センター開設 20 周年記念事業 P. 19

1. 記念事業の概要 … P.20
2. 各事業の成果 … P.20
 - ① 20 周年記念誌発行
 - ② 体験型イベント
 - I. 多摩の歴史講座
【足で知る多摩の魅力ガイドウォーク】
 - II. 「平成の名水百選」 落合川・南沢湧水群を歩く
 - III. 玉川上水の歴史を紐解く
 - ③ 登録団体の活動紹介の場の提供

● PART3 広域的市民ネットワーク活動等の 現状・課題・今後の方向性 ～調査結果の分析から～ P. 27

1. 広域的市民ネットワーク活動の状況と課題 … P.28

はじめに
調査の概要
分析の視点

 1. 主な活動分野
 2. 設立年
 3. 会員数
 4. 団体の種別

5. 活動日
6. 活動時間帯
7. 年間予算
8. 収入の構造
9. 支出の構造
10. 活動情報の発信媒体
11. 他の市民団体との連携や協働の有無
12. 連携・協働している団体
13. 連携が必要な団体
14. 助成を受けた事業の現在（活動分野別・予算別）
15. 助成を受けた事業の現在（収入構造別）
16. 事業を継続している上で抱えている課題・問題点 活動資金の確保について
17. 事業を継続している上で抱えている課題・問題点 人材育成（後継者）について
18. 課題解決のために行政や財団、企業に望むこと

助成団体の特徴について

助成事業の課題と方向性について

2. 地域の課題に取り組む市民活動 … P.49

- ・みんなちがってみんないい実行委員会
- ・NPO 法人地球冒険学校準備会
- ・子どもの虐待防止市民ネットワーク多摩
- ・武蔵野手打ちうどん保存普及会
- ・明星大学防犯ボランティア隊 MCAT（エムキャット）
- ・西多摩百景写真展実行委員会
- ・檜原の四季・お料理普及研究会
- ・NPO 法人府中かんきょう市民の会

3. 地域コミュニティづくりを目指して … P.57

- ・防災まちづくりの会・東久留米
- ・NPO 法人国立市動物調査会
- ・NPO 法人ダイバーシティコミュ
- ・認定 NPO 法人育て上げネット

PART4 広域的市民ネットワーク活動等への支援のしくみ P.61

1. 事業助成制度 … P.62

事業助成のしくみと変遷

- (1) 助成制度発足の経緯
- (2) 助成制度の概要（現行制度）
- (3) 助成制度の特例措置
 - ①西多摩地域振興事業
 - ②「環境保全」「ごみ減量・リサイクル」事業
 - ③長期継続団体事業の特例
- (4) 助成制度の変遷

2. 活動支援制度 … P.70

活動支援（育成制度）のしくみと変遷

- (1) 活動支援制度発足の経緯
- (2) 活動支援制度の概要（現行制度）
- (3) 活動支援制度の変遷

3. その他の支援制度 … P.72

学生支援（試行）のしくみと変遷

(1) 助成制度試行の経緯

(2) 助成制度（試行）の概要（平成 26 年度）

市民活動にかかる後援名義について

PART5 自主事業・共催事業の紹介とあゆみ

P.75

自主事業・共催事業について … P.76

1. TAMA 市民塾 … P.76

①TAMA 市民塾の設立経緯

②TAMA 市民塾の運営と役割

TAMA 市民塾講座開催状況

TAMA 市民塾 歴代理事一覧

<寄稿> TAMA 市民塾と多摩交流センター

▶「TAMA 市民塾」塾長 横田至明

2. NPO 法人全国生涯学習ネットワーク … P.82

① NPO 法人全国生涯学習ネットワークの概要

②多摩発・遠隔生涯学習講座のあゆみ

③多摩発・遠隔生涯学習講座の紹介

「多摩発・遠隔生涯学習講座」ネットワーク中継図

「多摩発・遠隔生涯学習講座」の開催状況

<寄稿> 「多摩発・遠隔生涯学習講座」の役割

▶「NPO 法人全国生涯学習ネットワーク」会長 高原北雄

3. (公財) たましん地域文化財団 … P.92

① (公財) たましん地域文化財団の概要

②多摩の歴史講座の紹介

「多摩の歴史講座」の開催状況

<寄稿> 多摩交流センター・たましん地域文化財団共催「多摩の歴史講座」の 18 年

▶「(公財) たましん地域文化財団歴史資料室」坂田宏之

4. NPO 法人東京・多摩リサイクル市民連邦 … P.96

① NPO 法人東京・多摩リサイクル市民連邦の概要

②TAMA とことん討論会のあゆみ

③TAMA とことん討論会の紹介

TAMA とことん討論会の開催状況

<寄稿> TAMA とことん討論会と歩んだ 20 周年

▶「NPO 法人東京・多摩リサイクル市民連邦」代表理事 小石恵子

5. その他、講演会等の取組み … P.105

講演会等実施状況

PART6 施設の利用について 交流の場の提供

P.107

1. 会議室及び施設等の紹介 … P.108

①会議室

②市民交流・資料室

③印刷室

④会議室・施設の利用登録

⑤今後に向けて

[参考] 多摩交流センター会議室の登録・利用までの流れ
会議室の申込み方法 (図)

2. 登録団体のあゆみと活動状況 … P.113

分野別登録団体の状況

多摩交流センター会議室利用登録団体一覧

<寄稿>会議室利用団体から (4 団体)

- ▶ きりえ、26 年のあゆみ …きりえグループ「きり友」 窪田俊子
- ▶ 多摩交流センターと葵の会 …葵の会 高垣葵
- ▶ 府中、駅前旅行 …旅のたから箱 岡崎志織
- ▶ スポーツ吹矢で毎日いきいき！…スポーツ吹矢「いぶき会」 平久保康子

PART7 情報の収集と発信

P.123

1. 情報の収集と公開 … P.124

①多摩に関する情報の収集・提供

②(公財) 東京市町村自治調査会発行の調査研究報告書等の公開

③「TAMA らいふ 21」の記録や関連資料等の公開

収集・公開資料一覧 (「TAMA らいふ 21」に関する報告書など)

2. 機関紙の発行 … P.132

①機関紙「ぐるり 39」の紹介

②旧情報紙「多摩のかけはし」

3. 東京 TAMA タウン誌会との連携 … P.133

①東京 TAMA タウン誌会の概要

②東京 TAMA タウン誌会との連携とあゆみ (成果)

<寄稿>成熟社会へ向かう多摩の地域メディアとして

▶ 東京 TAMA タウン誌会 会長 柴崎 斉

4. その他 … P.138

ホームページ開設とコンテンツ

PART8 資料編

P.141

TAMA らいふ 21 協会の提案 … P.142

①(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」の設置

②(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」の発足

③期待される機能について

④(仮称)「TAMA らいふ 21 情報交流センター」の将来構想

タイムカプセルについて … P.146

編集後記 … P.147

多摩交流センターの
20周年を祝して

挨拶

理事長 挨拶

記念誌発刊にあたって

公益財団法人 東京市町村自治調査会
理事長 竹内 俊夫（青梅市長）



多摩地域が神奈川県から当時の東京府へ移管されてから 100 周年の記念事業として、平成 4~5 年に国営昭和記念公園を中心に「TAMA らいふ 21」が開催されました。

この「TAMA らいふ 21」は、環境問題、生涯学習やスポーツ等への広域的な市民活動の取組みが活発化する一つの契機となりましたが、その成果の継承と発展を目的に、「多摩地域の広域的な市民活動を支援するセンター」として、平成 6 年 7 月に多摩地域 32 市町村（当時）の総意により、（財）東京市町村自治調査会内に「多摩交流センター」が開設されました。

開設以来、皆様のあたたかいご支援のもとで、多摩交流センターは広域的市民活動への助成事業や市民団体との共催事業を実施するなど、市民ネットワーク活動の推進と広域的な市民交流を図る役割を担ってまいりました。

このたび、多摩交流センター開設 20 周年を迎えることができましたことは、市民団体の皆様や、市民活動を日々実践されている皆様のご指導とご協力の賜物と深く感謝いたします。

さて、本記念誌の特徴は、センター事業の柱でもあります助成制度について、助成団体の活動内容を紹介しつつ、各団体が長期間にわたり活動を継続していく上でのポイントや課題を可能な範囲で明らかにし、市民活動の今後の方向性について示唆していることです。また、本事業助成の対象とはなっていませんが、継続して地域づくりを実践している団体、今後の多摩地域でモデルケースとなりうる活動や運営方法を生み出している団体にも焦点をあて、これからの市民団体の活動のあり方を展望する内容ともなっています。さらに、その他の項目についても「役に立つハンドブック」をめざし、今後の市民活動に活用していただけるような構成・内容としております。

広域的市民ネットワーク活動をはじめ、各種の市民団体の活動に取り組まれている関係者の皆様や市民の皆様、さらには行政関係者がこの記念誌にお目通しいただき、地域における市民活動に少しでも役立てていただければ幸いに存じます。

最後になりますが、今後とも公益財団法人東京市町村自治調査会及び多摩交流センターに対しまして、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

多摩交流センター 開設 20 周年にあたって

多摩交流基金運営委員会
会長 渋谷 金太郎（清瀬市長）



多摩新時代の創造をめざして 365 万人のまちづくり運動を展開した「TAMA らいふ 21」の成果の継承と発展を目的として平成 6 年 7 月に多摩交流センターが開設され、このたび 20 周年を迎えました。これまでセンターの活動を支えていただきました市民団体の皆様に厚く御礼申し上げます。

多摩交流センターは、市町村という枠を越えた多摩エリアの市民活動をさまざまな面からサポートするため、広域的な市民団体への助成や会議室の提供、多摩に関する情報の収集・発信などの事業を展開していますが、私は、その事業目的を達成するために設置された公益財団法人東京市町村自治調査会多摩交流基金運営委員会の会長を平成 23 年より務めさせていただいています。本基金運営委員会は、TAMA らいふ 21 協会から引き継いだ資金を効果的に活用するため、「広域的市民ネットワーク活動等事業助成」制度を設け、市民団体の育成に向けて助成するとともに、助成を受けた団体が自立、発展するように側面から支援することを運営の基本としています。

毎年、広域的市民団体から申請された環境、福祉、芸術文化、スポーツなど様々な分野の事業計画を審査・評価し市民団体の事業発展に結びつけることを役割としており、センター開設時の平成 6 年度から 26 年度までの 21 年間に、この制度により 1,000 件を上回る助成を行い、制度を活用していただく中で多くの広域的市民団体が育ち、事業を拡大し、多摩地域のひとづくり・まちづくりにつながる市民活動が着実に展開されてきたと確信しております。本記念誌は、多摩交流センターのこれまでの活動を振り返るとともに、こうした広域的な市民団体の活動についても、今後の方向性を考えるうえでの指標となりうる調査・分析結果を報告するものとなっています。ご活用いただければ幸いです。

また、本年度はセンター開設 20 周年記念事業を行っており、本記念誌発行のほか、センター登録団体に協力をいただき多摩地域の魅力を発見・体験・創造する「足で知る多摩の魅力ガイドウォーク」を、「武蔵野台地と水」をテーマとして実施し、参加者からは好評をいただきました。さらに、センター登録団体の日頃の活動成果を発表する場の提供も新たに開始しました。これらの事業が、改めて多摩地域への親しみや愛着を感じ、その魅力や将来について見つめなおすきっかけとなることを望んでいます。

多摩地域の広域的市民活動の一層の発展のため、今後とも多摩交流センター事業を充実・強化してまいる所存ですので、引き続きのご理解・ご支援をお願いしてご挨拶とさせていただきます。

多摩交流センター 開設 20 周年にあたって

多摩交流基金運営委員会

委員 坂本 義次（檜原村長）



多摩交流センター開設 20 周年を心からお慶び申し上げますとともに、記念誌の発刊をお祝い申し上げます。

平成 4～5 年に多摩東京移管百周年記念事業「TAMA らいふ 21」が開催され多摩各地で 369 事業、736 催事、延べ 665 万人が参加し大成功を収めました。その事業を一過性のイベントとすることなく「まちづくり運動」として引き続き将来に向けて繋いでいく組織として平成 6 年に多摩交流センターが設立され、早 20 年が経過しこのたび成人を迎えたこととなります。

多摩交流センターがこの間、広域的な市民活動の発展に尽力されたことに深く敬意を表します。

さて、私は、西多摩地域を代表して公益財団法人東京市町村自治調査会多摩交流基金運営委員会の委員として広域的市民ネットワーク活動事業や西多摩地域振興事業にかける助成申請の審査委員を務めさせていただいております。

この西多摩林間地域における振興のための事業については、過疎化の問題や広域的な市民活動が困難な地区もあることから事業の特例や助成期間の優遇についてご配慮をいただき、西多摩林間地域の市民団体が都市部の人達との交流を図りながら地域の活性化やひとづくりにつなげることができる、きめ細やかな制度として設計されています。

おかげさまで、檜原村の冬の魅力を発信する「払沢の滝冬まつり」や奥多摩町の美しい景観と清流を楽しむ「奥多摩ふれあいカヌーフェスティバル」など助成認定を受けている振興事業も、参加者が年々増えるなど西多摩地域の活性化にも大きな役割を果たすイベントに育ってきており大変うれしく思います。

本記念誌は、多摩交流センターのこれまでの活動を振り返るとともに、西多摩地域の振興事業についても紹介させていただいております。ぜひ、お目を通していただき西多摩地域振興事業に温かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、公益財団法人東京市町村自治調査会多摩交流センターにおかれましては、この記念すべき年を契機に、これまで培われてきた豊かな知識と経験を活かし、今後益々のご発展されますことをご期待申し上げますとともに、皆様方のご健勝を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

多摩交流センター 開設 20 周年に寄せて

元 TAMA らいふ 21 協会
事務次長 横山 洋吉



多摩東京移管百周年記念事業－ TAMA らいふ 21 が多摩地域全域で展開され、当時の鈴木俊一都知事と 32 市町村長の皆様により「多摩新時代宣言」が採択されてから 21 年余が経過しました。

「多摩新時代の創造」のテーマのもとに展開された「TAMA らいふ 21」は、リサイクルなど多摩地域の広域的課題解決を目指した 6 つのテーマプログラム、自治とくらしを視点とした 2 つの総括プログラム、市町村等が市民と協働して実施した地域企画プログラム、市民等の手による自主企画プログラム、そしてそれらの取組みをくらしの視点から集約・再構成した「多摩 21 くらしの祭典」など多彩な事業を展開し、いくつものネットワークを築くことができました。この間の様々な提言は、その後も着実に受け継がれ、例えば「多摩国体の開催」は、一昨年開催された「スポーツ祭東京 2013」として結実しています。

この「TAMA らいふ 21」の理念の継承と発展を目的に開設された多摩交流センターが、このほど 20 周年を迎えました。誠に慶ばしいことと心からお祝い申し上げます。

センターが行ってきた市民団体への息の長い助成等を通じて、水と緑、芸術文化、地域振興をはじめとした幅広い分野において、広域的な市民団体が着実に育ち、活発な活動が行われ、地域社会の絆づくりと発展に大いに貢献してまいりました。

『多摩交流センター 20 年のあゆみ』は、「市民ネットワーク活動のこれまでとこれから」というサブタイトルが示す通り、広域的市民団体の活動と成果の概要を紹介しています。

多摩地域においても人口減少社会の到来が迫るとともに、高齢化が進展するなど、従来の右肩上がりの成長・拡大から、活力ある都市の成熟・持続へと発想の転換が求められています。こうした中、職・緑・遊・住のバランスのとれたまちづくりを進めていくためには、市民の皆さんの果たす役割が一層重要になるものと考えます。本記念誌がその際の羅針盤として活用されるとともに、多摩交流センターのますますのご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

